

宮川ダムの目的

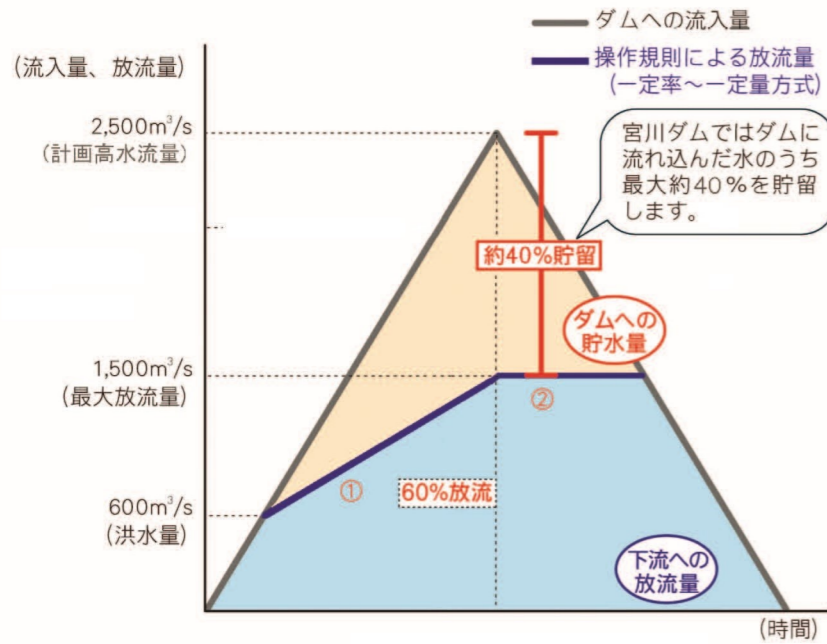
1. 洪水調節 (洪水対策)
2. 不特定かんがい用水の供給 (農業用水)
3. 発電



1 治水 洪水調節

■計画高水流量 2,500m³/sのうち1,000m³/sを調節 (ダムに貯留) して大台町から伊勢市までの下流域での水害軽減に効果を発揮しています。

洪水調節概念図

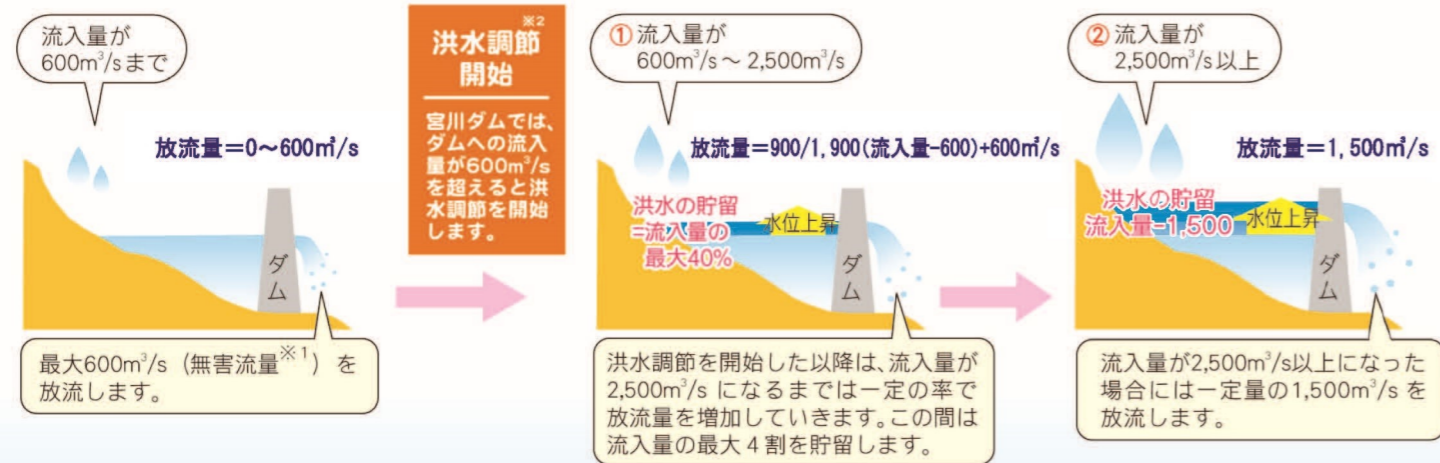


例えば…

流域に降った雨は河川に集まり流下していきます。この時のピーク流量が2,500m³/sであった場合、ダムがないとこの水はいっしょに流れて下流河川の水位は大幅に上昇することとなります。ダムの洪水調節は、下流河川の水位上昇を低減させることを目的としているため、本来ならばそのまま流下する2,500m³/sの流量のうち1,000m³/sの水をダムに貯留することにより、下流の水位上昇を緩和し水害の軽減を図る操作です。

★「1,000m³/sの水をダムに貯留する」とは、1秒間にドラム缶5,000本分の水をダムに貯めるということです。

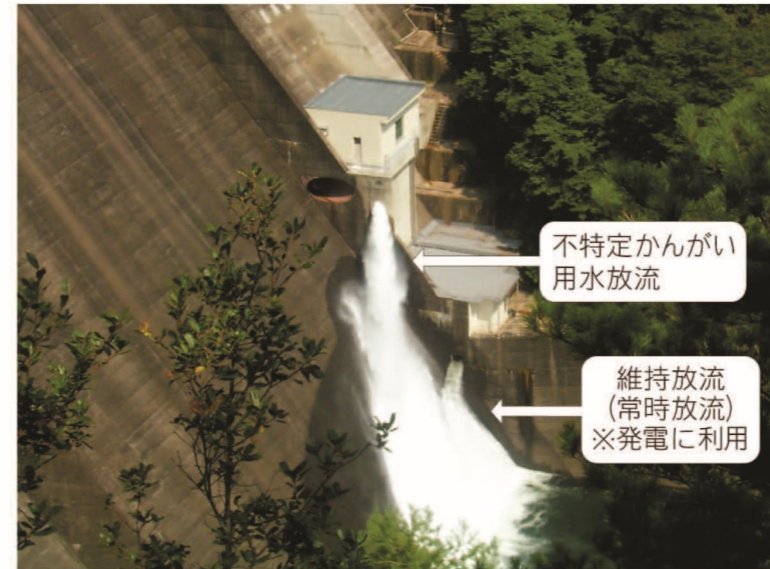
洪水調節方法



※1 無害流量とは、ダムが放流をしても下流に被害のない水量を言います。
 ※2 洪水調節とは、流入量の一部をダムに貯めることにより、下流河川の流量を減らし水位を低下させる操作のことです。

2 利水 不特定かんがい用水の供給 (農業用水)

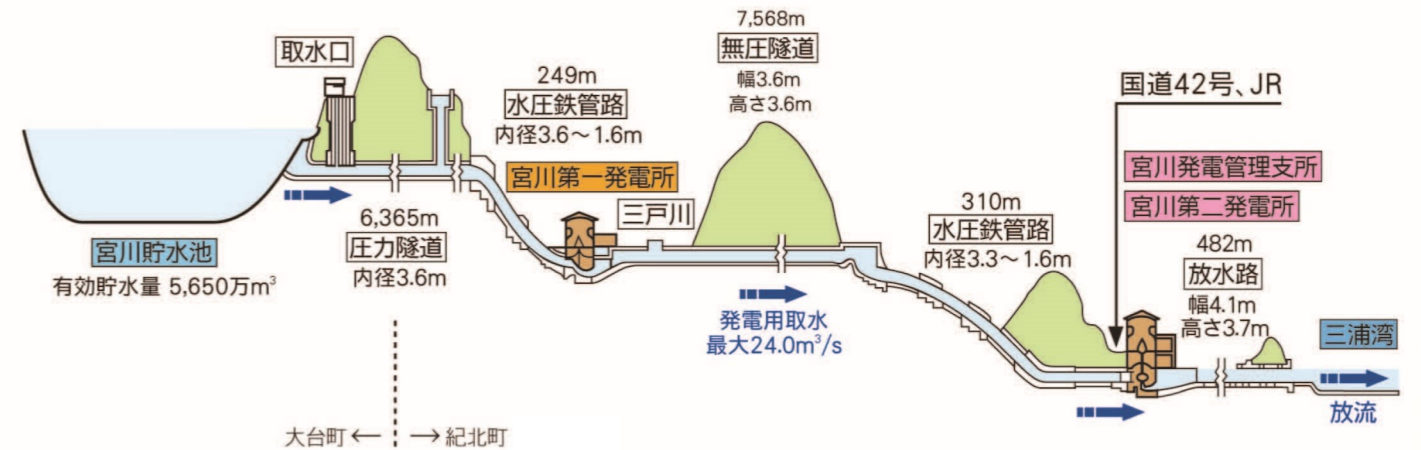
■安定した不特定かんがい用水の供給を行なっています。伊勢市他4町約4,700ヘクタールの耕地に不特定かんがい用水をダムから供給しています。かんがい期間中は750万m³を上限として供給し、最大4.62m³/sの水を放流することが可能です。



不特定かんがいによる受益地域

3 利水 発電

■3つの発電所に水を供給します。宮川ダムに貯留された水は水力発電所に供給され、宮川第一発電所、第二発電所で最大54,200キロワットの電力を生み出しています。また、宮川ダムでは常時0.5m³/s (河川維持) の放流を行っており、この水は宮川ダム管理水力発電設備(ダム直下) により有効利用され、最大220キロワットの電力を生み出しています。



宮川第1・第2発電所で使用される発電水の経路図